

「国語総合」の指導と評価の工夫

第2集

後編

単元の指導と評価の実際（A 話すこと・聞くこと）

- 1 単元名
「討論をする」【A03】（6時間）
- 2 年間指導計画上の位置づけと本単元のねらい
取り上げる学習指導要領の内容（指導事項）は、A領域のウと言語事項のイとする。
B領域の「説明文を書く」および「意見文を書く」学習と、C領域の「論説的文章（評論）を読む」学習との関連を図り、学習者の論理的思考力の向上を目指す。
A領域最後の単元として、年間を通して身に付けるべき「話す・聞く能力」の育成と評価にも留意する。
- 3 単元の目標
 - ① 話し合いを通して自分の考えを深める工夫をする。（関心・意欲・態度）
 - ② 相手の立場や考えを尊重しながら話し合う。（話す・聞く能力）
 - ③ 自分の考えを効果的に表現する方法を理解する。（知識・理解）
- 4 単元の評価規準
 - ① 様々な意見を聞き合いながら話し合おうとしている。（関心・意欲・態度）
 - ② 相手の意見を尊重し理解を図りながら話し合っている。（話す・聞く能力）
 - ③ 自分の意見を筋道立てて話す方法についての理解を深めている。（知識・理解）
- 5 指導と評価の計画

時	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	○討論の目的を理解し、討論に必要な基礎的な技術を身につける。	「知識・理解③」	行動（発言）の観察 記述の確認	○討論の学習の目的を確認する。 ○説得力のある理由を示しながら自分の意見を主張する方法を実践的な練習を通じて学ぶ。
2 ・ 3	○資料の読み取りを通して、自分の考えをまとめる。			○「消費税」など、あるテーマに関する文章や図表等の資料を読み取る。 ○読み取った内容をもとに、自分の意見をまとめる。
4	○話し合いを通して、グループの考えをまとめる。	「話す・聞く能力②」	行動（発言）の観察	○司会などの役割を分担し、グループ内で自分の意見を互いに発表し合う。 ○発表した意見の疑問点や肯定できる点などを互いに話し合う。 ○話し合いの結果をもとに、グループの意見をまとめる。
5 ・ 6	○グループどうしの討論を行う。	「話す・聞く能力②」	行動（発言）の観察	○グループ討論の準備をする。 ○「主張」「質疑」「根拠発表」「自由討論」の形式で、グループ討論を行う。 ○討論を行わないグループは、討論の内容の評価をする。
6	○討論の学習を振り返る。	「関心・意欲・態度」①	記述（評価表）の確認	○評価の結果をもとに、討論の学習の自己評価を行う。

※「知識・理解」「関心・意欲・態度」は、第一時から第六時まで確認する。

6 各時間の評価と指導の実際

【第1時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○討論することの目的を理解する。	◇ワークシート①に討論の目的を記入させる。	○机間指導時およびワークシートの記述により確認する。
○適切に討論するための基本を理解する。	◇討論の基本をワークシート①にまとめさせる。	
○討論の練習をするためにワークシート②に記入する。		
○二人組みになり、討論の練習をする。	◇簡易リンクマップに記した順に話すよう指示する。	
○自分の意見を効果的に伝えるために、順序を工夫して話す。	◆リンクマップの流れが順接の関係にあり、自分の立場を伝えるための構成になっていることを、判断のよりどころとする。	
○相手の立場に考慮しながら質問する。	◇相手の意見や一般論をふまえてから、質問をするよう指導する。	
○根拠を示しながら自分の意見を述べる方法を理解する。	◇資料から意見の根拠を求め、発言に加えるよう指示する。	

【十分満足できる (A) 生徒の具体例】
リンクマップが論理的に構成されており、主張の根拠が記されている。

【努力を要する (C) 生徒への手だての例】
リンクマップの間に「そうすると」や「そして」という語句を記入させ、再度表を作成させる。またどうしても作成ができない生徒には、書き出しを指定し、その後続く流れを考えさせる。

【第2～第3時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○「消費税」など、あるテーマに関する文章や図表等の資料を読み取る。	◇評論文・実用的な文章・グラフ・統計など、多様な資料を提示し、多角的にテーマをとらえるようにする。 ◇テーマの利点・欠点をワークシート③にまとめさせる。 ◇ワークシート④にリンク	

【十分満足できる (A) 生徒の具体例】

マップを作成させる。

◇ワークシート③④を参考にしながら、ワークシート⑤に自分の考えをまとめさせる。

○読み取った内容のもとに、自分の意見をまとめる。

◆既習事項 (すでに身に付けた力) を活用するため、この時間の評価は、必要に応じて記録する。

○授業時の行動の観察や、授業後にワークシートの記述の点検を行い、必要に応じて記録に残す。

【努力を要する (C) 生徒への手だての例】
資料の数を限定し、内容の読み取りを行う。それでも自分の意見をまとめられない生徒にはワークシート③を友人の作成したものを参考にしながら数多く書かせる。ワークシート④の書き出しを指定し作成させ、自分の意見をまとめさせる。

【第4時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○司会などの役割を分担し、グループ内で意見を互いに発表し合う。	◇前時に作成したワークシート⑤等を参考にしながら発表しあうよう指示する。	○グループの活動を観察する。
○発表した意見の疑問点や肯定できる点などを話し合う。	◇自分と意見が異なる相手には、なぜそのような意見を持ったのか質問させる。	
○話し合いの結果のもとに、グループの立場を決定する。	◇自らの意見を述べる時には、主張の根拠となる事実や統計を提示し、筋道立てて話すよう指示する。	
○グループの活動を評価表①に自己評価し活動を振り返る。	◆ 第一時に学んだ知識をグループの話し合いに生かしているかを判断のよりどころとする。	

【十分満足できる (A) 生徒の具体例】
リンクマップに沿って話す順番を工夫しながら発言している。

【努力を要する (C) 生徒への手だての例】
リンクマップを見直し、発生の過程を再検討するよう指示し助言する。

【第5時～第6時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○グループ討論の準備をする。	◇肯定側 (否定側) のメリット・デメリットを、グル	

【十分満足できる (A)

相手への質問(一分)

●二つ目の質問です。たしかに「重要 深刻」だと思いますが、その根拠を他にもあげてください。

【は

●二つ目の質問です。たしかに「は(重要 深刻)」だと思いますが、その必要性についてももう一度説明してください。

【

○たしかに「刻」だと思いますが、【考えますか。

【は(重要 深刻)についてはどのように

相手グループからの質問メモ

Empty box for notes from the other group.

相手への回答(一分)

●二つ目の質問にお答えします。

【の根拠は

【です。よって炭

素税導入の(利点 欠点)は(重要 深刻)だと考えます。

●二つ目の質問にお答えします。

【の必要性は

【です。よって炭

炭素税導入の(利点 欠点)は(重要 深刻)だと考えます。

自由討論メモ

□ 利点・欠点

□

□

□ 利点・欠点の根拠

□

□

□ 相手グループの納得できる意見

□

□

□ 相手グループに質問すること

□

□

□ その他

□

□

根拠説明

さきほどの主張の根拠を説明します。

根拠は

【に基づいています。

【た

主張(一分)

「討論する」ー論理的思考力の向上ー
「日本は炭素税を導入すべし」
グループのメンバー)

⑦

HR () (氏名)

これから(グループ)グループごの主張をはじめます。私たちは(肯定側 否定側)の立場で主張します。

炭素税を導入する(利点 欠点)は【

【で

炭素税を導入します。

そうすると【

【

そうすると【

【

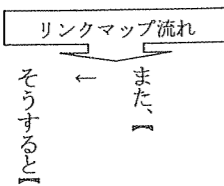
そうすると【

【

【他に根拠としては
【あげられます。

【

【た



【これら【により、炭素税を導入すると【】で

Box for notes: 相手グループの主張メモ, 立場(肯定 否定), 利点 欠点, 根拠

主張	グループ1 (肯否) メモ	グループ2 (肯否) メモ
主張 根拠		
質問 内容		
質問 回答		
自由 討論		
その他 良かった 点を記入		

国語総合「討論する」―論理的思考力の向上― 評価表①(グループの活動評価)

評価ポイント	評価
1 主張の根拠を統計やデータを示しながら提示できた。	3 2 1
2 グループでの話し合いを通じて、考えが深まった。	3 2 1
3 相手の立場や考えを大切にしながら発言した。	3 2 1
4 相手の意見をメモし、考えを理解しながら話し合った。	3 2 1
5 自分の意見を筋道立てて話す方法を理解した。(リンクマップ)	3 2 1
グループの話し合い感想	
グループでおしの討論の際に注意したこと	

評価ポイント	肯定側 評価	否定側 評価
主張の根拠を提示できていた。	5 3 1	5 3 1
筋道立てて話すことができていた。	5 3 1	5 3 1
相手の立場を考慮し、話し合ったことができた。	5 3 1	5 3 1
質問の内容は適切だった。	5 3 1	5 3 1
質問の内容に適切に答えていた。	5 3 1	5 3 1
自由討論で積極的に発言していた。	5 3 1	5 3 1
声の大きさは適切だった。(小さくなかった。)	3 2 1	3 2 1
話す態度は適切だった。(相手の目を見て話していた。)	3 2 1	3 2 1
合計得点		
合計得点		

単元の指導と評価の事例（B 書くこと）

1 単元名

「意見文を書く」【B08】（6時間）

2 年間指導計画上の位置づけと本単元のねらい

本単元では、意見文を「ある事柄や問題について、読み手を説得するために、自分の意見や主張を筋道立て述べる文章」と定義する。意見文の書き方について学ばせ、実際に書くことで、その技能と、独自性、説得性、論理性を身に付けさせることをねらいとしている。更に自己や社会を鋭く見つめ、問題をとらえていく姿勢も養う。

年間指導計画の中では、「書くこと」の領域として、2学期に「記録文」「報告文」、3学期に「説明文」を学習済みである。論理的思考を意識させ、1年間の「書くこと」のまとめとした。

また、「話すこと・聞くこと」の領域では、本時の直前に「討論する」を6時間学習し、「課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合う」（学習指導要領の内容・A「話すこと・聞くこと」ウ）力を培っており、その発展としての位置付けでもある。

さらに「読むこと」の領域では、3学期に「構成を確かめながら読む」ことを4時間学習済みであり、その発展としての位置付けでもある。全体として、他領域との関連を意識し、C領域「構成を確かめながら読む」、B領域「説明文を書く」、A領域「討論する」、B領域「意見文を書く」と一連の流れを持たせた。各領域の集大成となる位置付けである。

3 単元の目標

- ① 自分の考えを持ちながら書く工夫をする。（関心・意欲・態度）
- ② 自分の考えをまとめ、それを相手に効果的に伝える。（書く能力）
- ③ 正しく語句を選ぶことの重要性を理解する。（知識・理解）

4 単元の評価規準

- ① 意見文の目的を理解し、思いつきや感想にとどまらない文章を書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- ② 根拠を明確にし、筋道だった意見を書いている。（書く能力）
- ③ 自分の意見を効果的に伝えるための語句の使い方を身に付けている。（知識・理解）

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	○意見文の書き方を学び、資料に基づき、主題文とアウトラインを作成する。	①関心・意欲・態度 ②書く能力	行動の観察 ワークシートの記述の確認	○意見文の書き方を学ぶ。 ○今までの学習で関心を持った話題について、自分の意見を定め、他者からの批評に堪えうよう準備し、主題文とアウトラインを作成する。
2	○相互評価に基づきアウトラインを完成す	②書く能力	ワークシートと相互評	○アウトラインを班で回覧し相互評価を行う。

討論の感想	評価ポイント					評価
	1	2	3	4	5	
討論に参加する際、大切だと思ったこと	主張の根拠を統計やデータを示しながら提示できた。	3	2	1		
	グループでの話し合いや討論を通じて、考えが深まった。	3	2	1		
	相手の立場や考えを大切にしながら発言した。	3	2	1		
	相手の論をメモし、考えを理解しながら話し合った。	3	2	1		
	自分の意見を筋道立てて話す方法を理解した。（リンクマップ）	3	2	1		

国語総合「討論する」—論理的思考力の向上—評価表③（自己評価）

HR () (氏名)

	る。		価表の記述の確認	○他者からの批評を参考に、アウトラインを推敲して完成する。
3	○下書きを書き、自己評価する。	②書く能力	原稿用紙の記述の確認	○アウトラインをもとに、論理の展開が明快となるように、原稿用紙に意見文の下書きを書く。 ○自己評価する。
4	○下書きを推敲後、清書する。	②書く能力 ③知識・理解	原稿用紙の記述の確認	○批評と自己評価をもとに、意見文を推敲し、完成させる。
5	○相互評価に基づき優秀作を選出する。	②書く能力	相互評価表と自己評価表の記述の確認	○書き終えた意見文を班で回覧して、優れた作品を選ぶ。
6	○優秀作を発表し、まとめとする。	①関心・意欲・態度	自己評価表の記述の確認	○各班の優れた作品発表を聞いて、学習を振り返る。

※第1時の単元の評価規準は、「書く能力」に重点を置くが、「関心・意欲・態度」もあわせ見る。
 ※第4時の単元の評価規準は、「知識・理解」に重点を置くが、「書く能力」もあわせ見る。

6 各時間の評価と指導の実際

【第1時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○意見文作成の手順を学ぶ。 ○自分の意見を定め、資料に基づき、主題文とアウトラインを作成する。	◇手順と型を示すことで主張と根拠を明確にした説得性のある意見文を書けるようにする。 ◇ワークシート①に従って主題文とアウトラインを作成する。 ◆主題文は「自分の意見が明確に示されている。」を判断のよりどころとする。 ◆アウトラインは論理の展開が明快に記されていることを判断のよりどころとする。	○持参した参考資料を、有効に活用しているか、机間指導により、確認する。 ○ワークシートにより、主題文とアウトラインができているかを確認する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】
 ●「書く能力」
 ・主張や根拠を明確にする語句を用いて、構成を意識したアウトラインを作成している。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】
 ●「書く能力」

--	--	--

・アウトラインが作成できない生徒には、友人の筋道の立ったアウトラインを参照させる。

【第2時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○アウトラインを読み合い、相互評価を行う。 ○アウトラインを完成する。	◇他者のアウトラインを読み、論理性を学ばせる。 ◆相互評価表は、あくまで生徒の学習活動であり、この時間の評価とはしない。	○ワークシート①(相互評価表含む)を提出させ、ワークシートの記述を確認する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】
 ●「書く能力」
 ・論理性、説得性を積極的に受け止めている。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】
 ●「書く能力」
 ・不明確な点や、構成のアンバランスを指摘する。

【第3時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○下書きを書く。	◇アウトラインに沿って、論理の展開が明快となるように指示する。 ◆「アウトラインに沿って、バランス良く書いている。」を判断のよりどころとする。	○下書きの提出によりその記述を点検する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】
 ●「書く能力」
 ・体験談や正当性のある社会現象や

○自己評価する。	◇自己評価表（ワークシート③）に基づき、自己評価する。 ◆「自己評価表に基づき、自己評価がなされている。」を判断のよりどころとする。 ◆評価基準は構成に重点化したものとする。 ◆ABCは、生徒の自己評価であり、ランク分けするものではない。 ◆Aは多様なもので、評価表はあくまで例示である。	○自己評価表を点検する。
----------	--	--------------

事件など、具体的な記述を根拠として書き込んでいる。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】
●「書く能力」
・不明確な点や、構成のアンバランスを指摘する。

【第4時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○他者からの批評と自己評価をもとに、意見文を推敲し、完成させる。	◇構成上の問題点や改善点を考える。 ◆「アウトラインに沿って、バランス良く書いている。」を判断のよりどころとする。	○机間指導によりその記述を点検する。 ○推敲後の文章を提出させ、その記述を確認する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】
●「書く能力」
・体験談や正当性のある社会現象や事件など、具体的な記述を根拠や反論として書き込んでいる。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】
●「書く能力」
・不明確な点や、構成のアンバランスを指摘する。

【第5時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○完成した意見文を1班5人で読み合い、相互評価により、優れた作品を選ぶ。	◇共感を呼ぶ作品の分析(独自性、説得性、論理性)をさせる。 ◆他者の分析・評価をすることで、自己の「書く能力」をみがくことに気づかせる。	○相互評価表(ワークシート③)を提出させ、その記述により確認する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】
●「書く能力」
・他者の文章の独自性、説得性、論理性を積極的に評価している。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】
●「書く能力」
・選ぶ過程で多様な評価を受け止めたことをまとめさせる。

【第6時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○優れた作品8編を発表する。 ○意見文の学習を振り返る。	◇作品発表を通して、自身の世界を広げさせる。 ◆生徒の気付かなかった点にも目を向けさせる。	○自己評価表(ワークシート④)を提出させ、その記述により確認する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】
●「関心・意欲・態度」
・他者の発表を積極的に受け止めている。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だ

◆意見文とは何か

意見文とは、ある問題（テーマ）について、自分の主張を根拠を示しながら叙述した文章をいう。
意見文の結論となるのは筆者の主張（意見）であって、事実や体験の報告、あるいはそれらについての単なる感想ではない。

◆意見文作成の手順

一 テーマの選定
学校生活、家庭生活、政治、社会、文化、自然など、どのような領域の問題でもよいが、次の点に注意することが大切である。

★テーマの選定の際の注意点

- ① 明確な結論（主張）の打ち出せるものがよい。
- ② 具体的な知識や直接の経験がある問題は、主張の根拠を示しやすい。
- ③ 字数制限（千百字〜千二百字）があるので、問題を絞った方がよい。

二 主題文の作成

主題文とは、選んだテーマについて自分が主張しようと思うことをまとめた文章を言い、今回は一文または二文で書く。

三 アウトライン（構想メモ）の作成

意見文の中に盛り込む内容を簡条書きにし、三〜七（標準的には五）段落に構成する。①はじめにテーマに関して思い浮かぶことを順不同で書き出し、②次にそれを取捨選択し、③最後に論理がつかないように配列していくとよい。

★構成の基本

- ① 序論（問題の提起） 一〜二段落
- ② 本論（問題の考察、主張の根拠の提示） 一〜四段落
- ③ 結論（問題についての主張） 一段落

四 意見文の執筆

①草稿（下書き）、②推敲、③清書 の順で行う。

◆意見文完成までの予定

- 第一時 意見文の書き方を学び、主題文とアウトラインを作成する。
- 第二時 相互評価に基づきアウトラインを練る。
- 第三時 下書きを書いて自己評価表とともに提出する。
- 第四時 清書する。
- 第五時 相互評価に基づき意見文を読み、優秀作を選出する。
- 第六時 優秀作を発表し、学習を振り返る。

月 月 月 月 月 月
日 日 日 日 日 日
() () () () () ()

【例】
●「関心・意欲・態度」
・気づかなかった新しい世界を受け止めた発表の感想をまとめさせる。

--	--	--

7 単元全体の評価

(1) 努力を要する (C) と判断される生徒への単元終了後の指導

関心・意欲・態度	優れた文章を読ませ、その理由を分析・要約し、感想とともに提出させる。
書く能力	不十分であった点を指摘し、もう一度推敲させて提出させる。
知識・理解	語句の使い方に留意させ、自分の足りなかった点をまとめて提出させる。

(2) 生徒の変容

最初に主題文を書き、アウトラインを提出させることにより、主張と構成を意識した文章を書くことに積極的に取り組むことができた。また、どの生徒も他者の文章の組立てに対して興味を持っており、相互評価は効果的であった。社会への視点・関心が広まった。

(3) 改善の視点

意見文の書き方を、段階を追って提示することで、文章を書くことに対する抵抗感を取り除くことができた。アウトラインに対する相互評価では、教師の評価をどの時点で示すかについて検討する。また、生徒の下書きに具体的な自己評価表を取り入れたが、その活かし方が今後の課題である。さらに生徒自身の相互評価をアウトラインと下書き段階で取り入れることの比較で生徒の意欲がどのように高まるかを検討する必要があると考えられる。

(北川 すみれ)

*本研究は、『日本語学』（明治書院）2007年5月号に発表したものである。

◆アウトライン（構想メモ）の作り方

意見文に盛り込む内容を簡条書きにして、次のような構成と段落数になるよう配列する。

★構成の基本

序論（一〜二段落）

題名によって示された問題の内容を、この段階でさらに明確に提起する。

*問題を疑問文で表わすと論の方向が明瞭になる。

*最初に具体的な事件や経験を示し、そこから問題を引き出してもよい。

本論（一〜四段落）

問題を分析・考察し、主張の根拠を筋道を立てて述べていく。

*問題にかかわる事件や経験を示し、それについて考察していくのもよい。

*賛成論と反対論、長所と短所などを対比して考察していてもよい。

結論（一段落）

本論での考察をもとに、そこから自分の主張を導き出す。

*序論で提起した問題に対して、その解答にならなければいけない。

★（アウトライン（構想メモ）の例）

テーマ 高齢化社会の福祉について

序論 段落1 高齢化の進む社会状況

本論 段落2 これからの福祉はどうあるべきか。（問題提起）

段落3 一昔前の老人の生活

段落4 老人ホームの役割と現状

段落5 自分の祖父母の例

結論 段落5 老人の知恵と経験を役立てることが最大の福祉である。（主張）

テーマ クローン技術の危険性について

序論 段落1 現在のクローン技術に関する簡単な情報

本論 段落2 クローン技術の人への適用は行うべきか。（問題提起）

段落3 その具体的な例と目的、必要性

段落4 クローン技術の利用で移植用臓器を大量に作り出すことについて

段落5 もし全く同じ人間が何人も存在するとしたら。

結論 段落5 クローン技術の人間への適用は行うべきではない。（主張）

★ 左表をもとに構成からみた下書きの自己評価をしよう。

- 1 まず、全体としてB(目標に到達した)とC(目標に届かない)の判断をする。
- 2 次に読み手を意識するなど何らかの創意工夫がなされているか、Aとする。

テーマ	A	B	C	自己評価
序論 (問題提起)	テーマに基づき、読み手を引きつけるような表現の、または新しい視点の問題提起がなされている。	テーマと結びつく問題提起がなされている。	問題提起がなされていない、またはテーマとの関連性が薄い。	
本論 (主張の根拠)	主張を支える明確かつ正確な根拠がある。	主張を支える根拠がある。	主張を支える根拠、すなわち事実や事例が挙げられていない。	
本論 (問題の考察)	十分な分析と考察がなされている。	自分なりの考察がなされている。	考察がなされていない、または中途で終わるなど不十分である。	
結論 (主張)	問題提起に対応し読み手に説得力のある主張が導き出されている。	自分としては納得できる主張となっている。	主張があいまいである。	
全体バランス	序論・結論が簡潔で本論に重点が置かれ、論理的に読みやすく展開されている。	序論・本論・結論のどれかに偏ることなく、論理が展開されている。	序論や本論の具体例ばかり、またはひとりよがりの考察が長々と説明されている。	

意見文アウトライン ワークシート① 参考メディア

テーマ

序論 問題提起	本論 段落1	結論 = 主題文

アウトライン相互評価表

- 1 表記・表現(誤字・脱字・語彙)
 - 2 構成(筋道を立てているか)
 - 3 内容(独自性があるか)
 - 4 根拠(事実やデータに基づいているか)
- (必要に応じて反証)
- A このままでよい
B 少し修正が必要である
C 努力して修正する必要がある

評価者	評価項目	評価	一言コメント(修正が必要なら修正すべき点を書くこと)
1 表記			
2 構成			
3 内容			
4 根拠(反証)			

評価者	評価項目	評価	一言コメント(修正が必要なら修正すべき点を書くこと)
1 表記			
2 構成			
3 内容			
4 根拠(反証)			

相互評価

- 1 表記・表現(誤字・脱字・語彙)
 - 2 構成(筋道を立てているか)
 - 3 内容(独自性があるか)
 - 4 説得性(事実やデータに基づいているか)
- A よい
B 大体よい
C 少し修正が必要である
D さらに修正が必要である

筆者	評価項目	評価	一言コメント
1 表記			
2 構成			
3 内容			
4 説得性			
5 総合			

相互評価を通して感じたこと、気づいたこと、考えたこと

評価者	評価項目	評価	一言コメント(修正が必要なら修正すべき点を書くこと)
1 表記			
2 構成			
3 内容			
4 根拠(反証)			

教師

改善後

題

序論 問題提起	本論 段落1	結論 = 主題文

3 意見文を書いて、考えたこと。

2 相互評価や自己評価を通して、考えたこと。

1 八人の作品と、自己の意見文とを比較して、考えたこと。

自己評価

意見文 ワークシート④ B

一年組番 ()

自己評価(意見文を書いたことや、友人の作品から考えたこと。)

意見文 ワークシート④ A

一年組番 ()

III 19年度研究

研究の概要

フロムTのこれまでの成果

- ・ 学習指導要領に基づいた『国語総合』年間の指導と評価の計画の作成
- ・ 各領域・単元の「指導と評価の計画」の作成・実践およびその報告(継続中)

平成19年度の主題

○グループ1 系統的・段階的な「関心・意欲・態度」の評価方法

どのように「関心・意欲・態度」を具体的に評価していくべきか

○グループ2 「A 話すこと・聞くこと」の評価

「話すこと・聞くこと」をひとつの単元において、どのように評価するのか

○グループ3 「C 読むこと」領域の系統性 (今回の発表では取り上げない)

系統的・段階的な「関心・意欲・態度」の評価方法

1 問題と目的

「関心・意欲・態度」についても、適正な指導・学習評価が行われるべきなのは言うまでもない。「関心・意欲・態度」の評価が、指導者の主観的な基準や慣習により行われることのないよう、評価の手続きや方法を明確にする必要がある。

「①指導目標・評価目標の作成」、「②授業の立案と実践」、「③学習評価、評定」「④指導の改善」という流れのうち、今回は①および③を中心に具体例や手順を明らかにすることを目的とし、下記の検討を行った。

- ・ 「関心・意欲・態度」の年間・学期の目標、評価規準を作成した。→(2)で述べる。
- ・ 各単元の評価規準およびBの基準に加え、A・Cの例を記述した。
→(3)ルーブリックの作成。
- ・ 単元の評価から評定へとどうつないでいくかの考察を行った。→(4)で述べる。

2 年間・学期の目標および評価規準の作成

「関心・意欲・態度」の単元の目標、評価基準→作成済

「関心・意欲・態度」の年間・学期の目標、評価規準→今回、作成した

関心・意欲・態度は、一度に形成されるものではない。おおまかに見れば、関心→意欲→態度の順に、学習者の中で形成されていくものである。そのため、下記のような実践が有効であると考える。

例) 各単元の中で:「関心」、「意欲」、「態度」を順に育てることを目指す。

年間を通して:1学期は「関心」を持たせつつ比較的平易な課題に取り組み、2学期は

より高度な活動を通じて生徒の「意欲」の強化を促し、3学期は言語文化を尊重する「態度」の育成を目指す。

年間という大きなスパイラルの中に、単元という小さなスパイラルが連なっているイメージをしていただきたい。本グループでは、上記の考えのもとに、「関心・意欲・態度」の年間、学期ごとという中期的スパンでの評価のための評価規準の作成を新たに行った(表1)。ただし、実際の評価規準は、各単元でどのような内容を扱い、どのような活動を行わせるかにより大きく左右されるものである。また、生徒の現状に応じて指導すべき内容も変わってくるであろう。そのため、この年間・学期の評価規準を固定的なものとして捉えるのではなく、それぞれの学校・生徒の状況等に応じて適切な中期的スパンでの目標・評価規準を作成することが望ましいと考える。

表1 「国語総合」「関心・意欲・態度」年間の目標と評価規準

到達時期	目標・評価規準等	
1学期まで	段階	関心の深まりの段階
	目標	国語で表現し理解することで、伝え合う力を高める。
	評価規準	言葉を通して互いの立場や考えを尊重しようとしている。
	評価基準A	言葉を通して円滑に相互の伝達や理解を進めることに関心を持つことができる。
	評価基準B	言葉を通して互いの立場や考えを尊重することに関心を持つことができる。
2学期まで	段階	意欲の強まりの段階
	目標	思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
	評価規準	問題解決のための思考力を伸ばし、豊かな想像力を養おうとしている。
	評価基準A	創造的な思考力を伸ばし、他人を思いやる心や言葉の美しさを判断する能力を養おうとすることができる。
	評価基準B	問題解決のための思考力を伸ばし、豊かな想像力を養おうとすることができる。
3学期まで	段階	態度の高まりの段階
	目標	言語文化への関心を深め、国語を尊重しその向上を図る。
	評価規準	言語文化に目を向け、国語を愛する態度を培おうとしている。
	評価基準A	様々な言語文化を享受し、国語を愛護し改善を図る態度を培うことができる。
	評価基準B	言葉による創造的な活動に目を向け、国語を愛護する態度を培うことができる。
評価基準C	話し言葉や書き言葉のはたらきについて考えようすることができる。	

3 ルーブリックの作成

- ・ 指導者側の指導目標(「ねらい」)の設定とあわせて、学習者側の学習目標(「めあて」)の設定も有効
- ・ 学習者が単元の学習活動の目標として用いると同時に、指導者が単元の学習指導の際に、

「具体的評価規準」としても転用することが可能な、「ルーブリック」(評価規準)を、単元ごとに作成した(表2『「関心・意欲・態度」ルーブリック一覧」参照)。

指導者は、単元の始めに、学習の目標および評価規準を学習者に明示する。そして評価基準のもとに、各単元の指導・評価を行う。このように目標提示することにより、意欲・学習効果の増加・促進を図る。教師自身も目標・評価規準を明確に意識できる。そして「C」と判定される学習者には、適切な指導を行い、より多くの学習者を目標に到達させることが重要である。

ただし、ルーブリック作成の意図は、あくまでも学習者が学習活動の一環として自己評価に用いることを通して、「関心・意欲・態度」に関わる言語能力を伸長させるためのものであり、指導者が評価の際に学習者を選別するために用いるものではないということである。

4 単元の評価から評定へ

各単元において、評価規準・評価基準に従い、学習者の達成度の評価を行う。その結果を集計し、学期末、学年末において評定を判定するための材料にすることが可能である。

参考例：実際の集計作業としては、たとえば「A」を3点、「B」を2点、「C」を1点として、その単元における「関心・意欲・態度」の評価項目が10あったとすると、すべてを合わせた30点満点のうちの25点以上を判定A、24～15点を判定B、14点未満を判定Cとするなどの判定基準を作成することができる。

学習内容に応じて、判定Aを70%以上としたり、判定Bを60%以上としたりすることもできる。各学校・地域の実態、身につけさせたい言語能力等に合わせて、カッティングポイントを適切に設定する。これは、他の領域においても同様なことが可能である。

もちろん、「関心・意欲・態度」の絶対評価と評定については、数値化された評価結果だけに偏ってはならないのであり、行動観察、面接、自己評価・相互評価など、参考にするのできるその他の補助資料と総合しながら、機械的にならない評価・評定をおこなうことが大切である。しかし、教師の主観的・独善的な基準から評価・評定を行うことのないよう、できるだけ評価の手順・基準を明確化することが必要だと考える。他の領域の指導・評価の問題と合わせて、学期・学年の評価・評定をどのように適切に行っていくかについては、今後も考察していきたい。

5 考察および今後の課題

- 1) 実際の単元・授業の中で、どのように「関心・意欲・態度」を高めるための指導が可能か。
- 2) 実際の単元・授業の中で、どのように「関心・意欲・態度」を評価するのか。
- 3) 年間・学期・単元ごとの目標・評価規準の見直し。
- 4) 単元の評価および学期末・学年末の評定の出し方について。

【参考文献】長瀬 莊一(2003)『関心・意欲・態度(情意的領域)の絶対評価』明治図書出版(藤井 ゆき)

学期	単元	単元の目標	Aの例	Bの基準(評価規準より)	Cの例	Cへの手立ての例	評価方法	
一学期	A1	スピーチをする	相手を意識して分かりやすく話す。	聞き手に分かりやすく伝えるための工夫を行い、聞き手に効果的に伝えることができた。	聞き手に分かりやすく伝えるための工夫をしている。	聞き手に分かりやすく伝えるための工夫をすることができない。	聞き手にとって分かりやすい話し方を確認し、実行を促す。	行動の観察
	C1	読むことを楽しむ	読むことを楽しむようとする態度を身に付ける。	意欲を持って文章を読むことができた。	読むことに対する意欲を高めようとしている。	読むことに対する意欲を持つことができない。	自分なりの目標を持った上で読んでみるよう促す。	行動の観察
	C2	叙述に即して読む	ことばを意識しながら文章を読む。	ことばに対する自分なりのイメージを持ちながら文章を読むことができた。	ことばに対する自分なりのイメージを持つようとしている。	ことばに対する自分なりのイメージを持ちながら文章を読むことができない。	表現を読み取り、そこからイメージを持つためのヒント・助言を与える。	行動の観察
	B1	随筆文を書く	ことばを意識しながら、文章を書く。	読み手を意識しながら、表現したいことが明確な文章を書くことができた。	読み手を意識しながら、表現したいことが明確な文章を書くようとしている。	読み手を意識すること、表現したいことが明確な文章を書くことができない。	読み手は誰か、表現したいことは何かを明確にさせたうえで、書き直しをさせる。	行動の観察
	C3	古典に親しむ	古典を学習する意義を理解する。	古語辞典や漢和辞典を活用しながら古典作品を読むことができた。	古語辞典や漢和辞典を活用しながら古典作品を読もうとしている。	古語辞典や漢和辞典を活用しながら古典作品を読むことができない。	辞典の活用の仕方を確認させる。	行動の観察
	B2	広告文を書く	効果的な表現を考えて書く。	分析や吟味の成果を表現に取り入れることができた。	分析や吟味の成果を表現に取り入れようとしている。	分析や吟味の成果を表現に取り入れることができない。	分析や吟味の成果を確認し、それらを表現に取り入れるためのヒントを与える。	行動の観察
	C4	内容的に読む(1)	恣意的な読みにならない工夫をする。	書き手の考えなどを的確に把握することができた。	書き手の考えなどを的確に把握しようとしている。	書き手の考えなどを的確に把握することができない。	書き手の考えを把握する方法を確認させ、理解を促す。	行動の観察
	B3	定型文を書く	相手や目的に応じた文章を書く工夫をする。	相手や目的に応じて語句を選択しながら文章を書くことができた。	相手や目的に応じて語句を選択しながら文章を書くようとしている。	相手や目的に応じて語句を選択しながら文章を書くことができない。	相手や目的を意識させる。それらに応じて語句を選択する方法を確認させる。	記述(通知文・手紙)の確認
	C5	表現に即して読む(1)	磨かれた表現や文体を読み味わう。	言葉の美しさを発見することができた。	言葉の美しさを発見しようとしている。	言葉の美しさを発見することができない。	どのような表現に感性が刺激されたかを意識させる。	行動の観察
	C6	様々な文章を読む	自ら進んで読書しようとする意欲を身に付ける。	必要な書物を選び、進んで読書に取り組むことができた。	多くの書物の中から必要なものを選んでいく。	多くの書物の中から必要なものを選ぶことができない。	必要な書物と、その選択の方法を理解させる。	行動の観察
二学期	B4	紹介文を書く	表現力を向上させるための工夫をする。	様々な表現に触れ、自ら効果的な表現を考えて書くことができた。	様々な表現に触れ、自ら効果的な表現を考えて書こうとしている。	様々な表現に触れ、自ら効果的な表現を考えて書くことができない。	効果的な表現について確認させ、自らの表現に生かすよう促す。	行動の観察
	C7	詩歌を読む(1)	現代詩・漢詩の人物・情景・心情に基づいて朗読する。	現代詩・漢詩の人物・情景・心情に基づいて朗読できた。	現代詩・漢詩の人物・情景・心情に基づいて朗読しようとしている。	現代詩・漢詩の人物・情景・心情に基づいて朗読することができない。	人物・情景・心情を確認し、緊張を取り除いて朗読するよう促す。	行動(朗読)の観察
	C8	人物に注目して読む	文学作品を読んで豊かな心情や感性を養う。	小説を読むことを通して、自分の考えを広げることができた。	小説を読んで考えを広げようとしている。	小説を読むことを通して、自分の考えを広げることができない。	小説のテーマや自らに関連する内容の問いかけを行い、自分の考えを意識させる。	行動の観察
	B5	記録文を書く	目的に応じてより多くの情報を収集する。	目的を明確にし、事実を正確かつ簡潔に書き表わすことができた。	目的を明確にし、多くの事実を正確に書き表わしている。	目的を明確にし、事実を正確に書き表わすことができない。	文章の目的、事実と意見の違いを確認させた上で、事実を正確に書くよう促す。	記述の点検
	A2	インタビューをする	他者や身の回りの事柄に関心を持ってインタビューをする。	他者に関心を持ち、身の回りの事柄から問題を見付けることができた。	他者に関心を持ち、身の回りの事柄から問題を見付けようとする。	他者に関心を持ち、身の回りの事柄から問題を見付けることができない。	他者と自分、身の回りの事柄と自分との関わりについて意識させ、問題を見付けるためのヒントを与える。	記述(カード)の確認
	B6	報告文を書く	相手や目的を意識して、文章を書く。	相手や目的を意識して、分かりやすい文章を書くことができた。	相手や目的を意識して、わかりやすい文章を書くようとしている。	相手や目的を意識して、分かりやすい文章を書くことができない。	相手や目的を意識した書き方について確認させる。	記述の点検
	C9	表現に即して読む(2)	磨かれた表現や文体を読み味わう。	漢文特有の優れた表現や文体を発見することができた。	漢文特有の優れた表現や文体を発見しようとしている。	漢文特有の優れた表現や文体を発見することができない。	漢文特有の優れた表現や文体を見つける方法についてのヒントを与える。	行動の観察
	C10	ものの見方や感じ方などに注目して読む(1)	現代文と古文を読み比べる工夫をする。	人間や社会に対して自分なりの考えを持つことができた。	人間や社会に対して自分なりの考えを持つようとしている。	人間や社会に対して自分なりの考えを持つことができない。	筆者らの主張に対し、自分はどうか感じ、どう考えたのかを意識させる。	行動の観察
	C11	詩歌を読む(2)	声を出して積極的に読む。	短歌と和歌の内容を理解し、積極的に声に出して読むことができた。	短歌と和歌の内容を理解し、積極的に声に出して読もうとしている。	短歌と和歌の内容を理解し、積極的に声に出して読むことができない。	短歌と和歌の内容を確認し、(まずは小さな声でも)口に出して読むよう促す。	行動の観察
	三学期	C12	内容的に読む(2)	作品のおもしろさや特質を理解する。	作品を読み、表現の意図や特質をとらえることができた。	作品を読み、表現の意図や特質をとらえようとしている。	作品を読み、表現の意図や特質をとらえることができない。	表現の意図や特質をとらえるためのヒントを与える。
C13		ものの見方や感じ方などに注目して読む(2)	人間や社会について考える態度を身に付ける。	中国の思想を読むことを通して、人間や社会についての自分の考えを深めることができた。	中国の思想を読み、人間や社会について考えを深めようとしている。	中国の思想を読むことを通して、人間や社会についての自分の考えを深めることができない。	主題や内容に関連する問いかけを行い、考えを深めさせる。	行動の観察
C14		構成を確かめながら読む	論の展開を理解し、テーマに関心を持って読もうとしている。	文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取ることができた。	文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取ろうとしている。	文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取ることができない。	文章の構成を確認させる。筆者の考えを読み取るためのヒントを与える。	行動の観察、記述(ノート・ワークシート)の確認
B7		説明文を書く	相手にわかりやすく伝えるための工夫をする。	客観性を意識して、表現したいことが明確な文章を書くことができた。	客観性を意識して、書こうとしている。	客観性を意識して、表現したいことが明確な文章を書くことができない。	表現したいことを明確にさせ、それが読み手に伝わりやすい書き方の例を示す。	行動の観察、記述の確認
A3		討論する	話し合いを通して考えを深める工夫をする。	様々な意見を聞き合いながら話し合うことができた。	様々な意見を聞き合いながら話し合おうとしている。	様々な意見を聞き合いながら話し合うことができない。	相手の立場をふまえて自らの考えを述べるための方法をノートにまとめさせる。	記述(評価表)の確認
B8		意見文を書く	自分の考えを持ちながら書く工夫をする。	意見文の目的を理解し、思いつきや感想にとどまらない文章を書くことができた。	意見文の目的を理解し、思いつきや感想にとどまらない文章を書くようとしている。	意見文の目的を理解し、思いつきや感想にとどまらない文章を書くことができない。	意見文の目的を確認させる。根拠・理由、主張を明確化させるための助言を行う。	行動の観察、記述(自己評価表)の確認
O2	オリエンテーション(2)	国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をする。	国語を適切に表現したり理解したりすることで、伝え合う力を高める態度を身に付けることができた。	国語を適切に表現したり理解したりすることで、伝え合う力を高める態度を身に付けようとしている。	国語を適切に表現したり理解したりすることで、伝え合う力を高める態度を身に付けていない。	国語を適切に表現したり理解したりすることの意義・必要性などを意識させる。伝え合う力を高めるためにできることについて考えさせる。	記述(ワークシート)の点検	

「A 話すこと・聞くこと」の評価の実際

1 問題と目的

これまで本グループでは、国語総合の各領域における評価規準・方法について研究を続けてきた。そうした中で今年度は、生徒につけたい力の状況や定着の様子を定期考査ではなかなか測ることが難しい「A 話すこと・聞くこと」・「B 書くこと」について考察を深めたいと考え、研究を進めることとした。

この2つの領域を比較すると、「B 書くこと」については授業場面での生徒の様子だけでなく、書いたものが教師の手元に残り授業終了後にも評価の材料として活用できるが、「A 話すこと・聞くこと」については生徒の学習活動の場면을映像や音声に残さなければ振り返って評価できない。そのため、教師にとってはより評価が難しいという印象があるのではないかと考えた。そこで今年度は、昨年度「指導と評価の計画」を作成し検討した、「A 話すこと・聞くこと」の領域の中の「討論する」の単元における評価について焦点を当てて再度検討し、授業実践を行うこととした。

2 実践の概要

「A 話すこと・聞くこと」の中の「討論する」の単元における「指導と評価の計画」については昨年度作成し検討済みであるため、今年度の実践ではそれを活用することとした(資料1『「討論する」指導と評価の計画」参照)。評価方法を再検討する中で、「A 話すこと・聞くこと」の評価については、授業時間内での評価が一目でわかり、ある時間においてCと評価した生徒を継続的な指導によってBまで引き上げるために、その生徒を最後まで追えるような評価表を作成することがポイントになってくるのではないかと考えた。そこで、評価だけを取り出した評価表(表3-1「討論する 評価表」参照)を作成し、実際に授業で用いて検討することとした。

このような表を使用することによって

- ①指導者と学習者にとって評価規準(B評価)が明確になる。
- ②指導者が単元の指導を続けていく中で、Cと評価した生徒をB以上に引き上げていくような指導の継続を意識できる。
- ③指導者が評価そのものを意識できる。
- ④指導者にとって評価の負担が軽くなる。

という仮説に基づき、授業の中で使用した。この評価表を使用した授業における指導と評価の実際については、資料2『「討論する」指導と評価の報告」に示す。

3 結果と考察

実際に評価表を授業で使用してみると、仮説として挙げた①～③については概ね予想通りの結果となった。しかし、評価表の使用の際、不便な点があったため、次年度以降さらに活用しやすいように改訂した(表3-2「討論する 評価表(改訂版)」参照)。

今回の実践では、指導者が評価そのものを意識することによって、まず指導者は学習者がBに達することを考えながら指導を行った。成果として挙げられることは、Bの内容を意識すること

で、それ以上のことが行えているAの学習者、逆にそこまで到達していなCの学習者についてもしっかりと認識することができるようになった。そこで、Bに達しない生徒についてはその場での手立てが明確となり、単元の中で継続的に指導することができた。

また、今までの「A 話すこと・聞くこと」の領域における評価というと、評価規準が「行動の観察」であるために、指導者にとっては何となく評価する観点が曖昧であったり、面倒に感じられたりしていたことが多かったのではないかと思う。しかしこうした評価表を活用することで、指導者はB評価を意識することができ、単元全体を通しての学習者の様子というものを把握することができた。このような評価表については、今までにも机列表を活用したり、名票を活用したりと、多くの先生方が工夫を凝らされてきたことと思う。今回はそこに新たに評価の観点を明示したことにより、授業時間内でも後から振り返って評価を整理する際にも、一貫性のある評価という点での手助けになるのではないかと考えている。

観点別評価については隣県においてすでに、高等学校において生徒への提示が始まっている。観点別評価については様々な場所で研究が進められており、先生方も意識されていることと思うが、実際にはその認識の度合いにはかなりの温度差があるのが現実である。

適切な評価が行われることにより、その後の指導の改善にもつながり、方針も明確になる。評価が指導者にとって面倒であるために曖昧に済まされていたり、評価のための授業となってしまうたりしては、本末転倒なのである。

評価が生徒の言語能力を高める指導につながるように工夫、改善されていくことが今後ますます必要になると私たちは考えている。そのために少しでも指導者にとって評価の負担を軽減するとともに、評価を意識する手立てが大切である。今後も本グループでは実践を通してその成果と課題を明らかにしながら、評価方法の改善を図っていきたい。

(松原 志保・小林 清香・鈴木 直美)

表3-1 討論する 評価表

★AとCにチェックする。
★C評価はB評価となるよう指導を継続する。

出席番号	知識・理解(第一時)			話す・聞く能力①(第四時)			話す・聞く能力②(第五・六時)			関心・意欲・態度(第六時)			関心・意欲・態度	知識・理解
	A	B	C(手立て)	A	B	C(手立て)	A	B	C(手立て)	A	B	C(手立て)		
	リンクマップに自分とは異なる立場をふまえ、複数の視点を示しながら根拠を記している。	リンクマップの流れが順接の関係にあり、自分の立場を伝えるための構成になっている。	リンクマップの流れが順接になっていない。 ★手立ての例:リンクマップの間に「そうすると」「そして」など順接の語句を入れ、表がつながるか確認させる。またどうしても作成できない生徒には、書き出しを指定し、その後に関心・意欲・態度を考えた。	リンクマップに沿って話す順番を工夫しながら発言している。	リンクマップに沿いながら、自分の意見を説明している。	リンクマップに沿って話していない。 ★手立ての例:リンクマップを見直し、注の過程を指示する。	○相手の立場を尊重するために、相手の考えを自己の発言に加えながら話し合っている。 ○自由討論で、話す順番を工夫しながら自分の意見を	○相手の立場を尊重しながら話し合っている。 ○自由討論で意見を述べている。	○自分の意見だけを主張している。 ★手立ての例:相手の立場ではどのような考えがあったかノートにまとめさせる。 ○自由討論で意見を述べていない。 ★なぜ意見を述べるできなかったかノートにまとめさせる。改善策を提出させる。	討論の目標をふまえ、他の意見を聞き、自らの考えを深めようとしたことが、評価表②に記されている。	他の意見をふまえ、自らの意見を深めようとしたことが評価表②に記されている。	他の意見をふまえることができなかったと評価表②に記されている。 ★手立ての例:相手の立場をふまえ自らの考えを述べるための方法をノートにまとめさせる。		
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														
31														
32														
33														
34														
35														
36														
37														
38														
39														
40														

表3-2 討論する 評価表

★AとCにチェックする。
★C評価はB評価となるよう指導を継続する。

月 日 知識・理解(第一時)			名票	月 日 話す・聞く能力①(第四時)			関心・意欲・態度 知識・理解
A	B	C(手立て)		A	B	C(手立て)	
リンクマップに自分とは異なる立場をふまえ、複数の視点を示しながら根拠を記している。	リンクマップの流れが順接の関係にあり、自分の立場を伝えるための構成になっている。	リンクマップの流れが順接になっていない。 ★手立ての例:リンクマップの間に「そして」など順接の語句を入れ、表がつかぬか確認させる。またどうしても作成できない生徒には、書き出しを指定し、その後に続く流れを考えさせる。			リンクマップに沿って話す順番を工夫しながら発言している。	リンクマップに沿いながら、自分の意見を説明している。	
			1				
			2				
			3				
			4				
			5				
			6				
			7				
			8				
			9				
			10				
			11				
			12				
			13				
			14				
			15				
			16				
			17				
			18				
			19				
			20				
			21				
			22				
			23				
			24				
			25				
			26				
			27				
			28				
			29				
			30				
			31				
			32				
			33				
			34				
			35				
			36				
			37				
			38				
			39				
			40				

評価メモ

月 日 話す・聞く能力②(第五・六時)			名票	月 日 関心・意欲・態度(第六時)			関心・意欲・態度 知識・理解
A	B	C(手立て)		A	B	C(手立て)	
○相手の立場を尊重するために、相手の考えを自己の発言に加えながら話し合っている。 ○自由討論で、話す順番を工夫しながら自分の意見を述べている。	○相手の立場を尊重しながら話し合っている。 ○自由討論で意見を述べている。	○自分の意見だけを主張している。★手立ての例:相手の立場ではどのような考えがあったかノートにまとめさせる。 ○自由討論で意見を述べていない。★なぜ意見を述べるできなかったかノートにまとめさせ、改善策を提出させる。			討論の目標をふまえ、他の意見を聞き、自らの考えを深めようとしたことが、評価表②に記されている。	他の意見をふまえ、自らの意見を深めようとしたことが評価表②に記されている。	
			1				
			2				
			3				
			4				
			5				
			6				
			7				
			8				
			9				
			10				
			11				
			12				
			13				
			14				
			15				
			16				
			17				
			18				
			19				
			20				
			21				
			22				
			23				
			24				
			25				
			26				
			27				
			28				
			29				
			30				
			31				
			32				
			33				
			34				
			35				
			36				
			37				
			38				
			39				
			40				

評価メモ

活動記録（平成16年度全国連東京大会～平成20年度全国連東京大会）

回	日付	会場	主な内容
平成16年度（2004年度）			
—	10月15日（金）	千早高校	全国連第37回研究大会東京大会 第5分科会
24	12月25日（土）	城東高校	今後の研究テーマについて
25	2月5日（土）	城東高校	今後の研究テーマについて
26	3月19日（土）	城東高校	『国語総合』年間の指導と評価の計画の再検討
会員名簿（五十音順）			
雨海 博英（東京都立小山台高等学校）		鈴木 民子（東京都立三宅高等学校）	
荒木 奈美（東京都立八王子北高等学校）		高井 秀実（東京都立城東高等学校）	
尾崎 肇（東京都立調布南高等学校）		高橋 雅子（東京都立玉川高等学校）	
鬼塚 里子（東京都立国際高等学校）		高山 実佐（東京都立足立工業高等学校）	
小泉 清香（東京都立富士高等学校）		廣瀬 愛（東京都立千早高等学校）	
古宮才由里（東京都立拝島高等学校）		堀川真理子（東京都立清瀬東高等学校）	
佐藤 和彦（東京都立千早高等学校）		松原 志保（東京都立町田高等学校）	
平成17年度（2005年度）			
27	5月14日（土）	城東高校	領域ごとに単元の再検討
28	7月2日（土）	千早高校	高木展郎先生の講話、領域ごとに単元の再検討
29	8月21日（日）	城東高校	領域ごとに単元の再検討
30	10月8日（土）	千早高校	領域ごとに単元の再検討
31	12月25日（日）	城東高校	単元の系統性の検討、研究成果発表会準備
32	1月21日（土）	千早高校	研究成果発表会準備
—	2月10日（金）	青山高校	東京都高等学校国語教育研究会 研究成果発表会 発表主題：「国語総合」の指導と評価の工夫 —「年間の指導と評価の計画」の再構成— 発表者：小泉清香（富士高校）
33	3月18日（土）	千早高校	研究成果発表会の振り返り、今後の会の運営方針の協議
会員名簿（五十音順）			
雨海 博英（東京都立小山台高等学校）		佐藤 和彦（東京都立千早高等学校）	
荒木 奈美（東京都立八王子北高等学校）		高井 秀実（東京都立城東高等学校）	
石井 麻衣（東京都立青井高等学校）		高山 実佐（東京都立広尾高等学校）	
尾崎 肇（東京都立調布南高等学校）		廣瀬 愛（東京都立千早高等学校）	
小泉 清香（東京都立富士高等学校）		堀川真理子（東京都立大島高等学校）	
古宮才由里（東京都立八丈高等学校）		松原 志保（東京都立町田高等学校）	
平成18年度（2006年度）			
34	5月3日（水）	千早高校	今年度の研究テーマの設定、役割分担
35	6月10日（土）	千早高校	領域ごとに単元の指導案と他領域との関連性の検討
36	7月8日（土）	千早高校	単元の指導案の検討

37	8月5日(土)	千早高校	単元の指導案の検討、実践報告
38	9月2日(土)	千早高校	領域ごとに単元の指導案と他領域との関連性の検討
39	10月7日(土)	千早高校	A B C領域関連の単元の検討
40	11月5日(日)	千早高校	A B C領域関連の単元の検討、B領域指導案の検討
41	12月10日(日)	千早高校	ビデオによる実践報告、A B C領域関連の単元・B領域単元の検討
42	1月21日(土)	千早高校	実践報告、単元相互の関連・B領域の系統性の検討、発表内容整理
43	2月3日(土)	千早高校	発表会準備
—	2月16日(金)	青山高校	東京都高等学校国語教育研究会 研究成果発表会 発表主題：系統性を重視した指導と評価のあり方 —国語総合「書くこと」から見た場合— 発表者：松原志保(町田高校)、小林清香(千早高校)
会員名簿(五十音順)			
雨海 博英(東京都立小山台高等学校)		佐藤 和彦(東京都教育庁人事部職員課)	
池田 美穂(東京都立八潮高等学校)		鈴木 直美(東京都立千早高等学校)	
石井 麻衣(東京都立青井高等学校)		高井 秀実(東京都立城東高等学校)	
尾崎 肇(東京都立調布南高等学校)		高山 実佐(東京都立広尾高等学校)	
加藤 泰弘(東京都立工芸高等学校)		廣瀬 愛(東京都立千早高等学校)	
北川すみれ(東京都立戸山高等学校)		藤井 ゆき(東京都立中野工業高等学校)	
木村美保子(東京都立広尾高等学校)		堀川真理子(東京都立大島高等学校)	
小林 清香(東京都立千早高等学校)		松原 志保(神奈川県立外語短期大学付属高等学校)	
古宮才由里(東京都立八丈高等学校)		八木 由佳(東京都立練馬工業高等学校)	
平成19年度(2007年度)			
44	5月2日(水)	千早高校	今年度の研究テーマの設定、役割分担、会の運営についての協議
45	5月19日(土)	調布南高校	グループごとの研究計画の検討、指導案の検討
46	6月16日(土)	駒場高校	グループごとの研究内容の検討、指導案の検討
47	7月21日(土)	戸山高校	グループごとの研究内容の検討、指導案の検討
48	8月18日(土)	千早高校	グループごとの研究内容の検討、指導案の検討
49	9月29日(土)	隣接東京事務所	グループごとの研究内容の検討、指導案の検討
50	10月20日(土)	千早高校	グループごとの研究内容の検討
51	11月24日(土)	駒場高校	グループごとの研究内容の検討、指導案の検討
52	12月15日(土)	八潮高校	発表内容の整理
53	1月19日(土)	中野工業高校	発表内容の整理、発表会資料の検討
54	2月2日(土)	千早高校	ビデオによる実践報告、発表リハーサル、発表会資料作成

—	2月15日(金)	青山高校	東京都高等学校国語教育研究会 研究成果発表会 発表主題：目標に準拠した評価・評定 —『国語総合』年間の指導と評価の計画』を例に— 発表者：松原志保(神奈川県立外語短期大学付属高校) 藤井ゆき(中野工業高校)
55	3月15日(土)	戸山高校	発表会の振り返り、次年度の研究テーマ、会の運営について
会員名簿(五十音順)			
池田 美穂(東京都立八潮高等学校)		鈴木 直美(東京都立千早高等学校)	
尾崎 肇(東京都立調布南高等学校)		廣瀬 愛(東京都立千早高等学校)	
北川すみれ(東京都立戸山高等学校)		藤井 ゆき(東京都立中野工業高等学校)	
木村美保子(東京都立広尾高等学校)		松原 志保(神奈川県立外語短期大学付属高等学校)	
小林 清香(東京都立千早高等学校)		八木 由佳(東京都立桜修館中等教育学校)	
佐藤 和彦(東京都立駒場高等学校)			
平成20年度(2008年度)			
56	4月19日(土)	千早高校	今年度の研究テーマ・年間計画の確認
57	5月17日(土)	千早高校	指導案の検討
58	6月14日(土)	戸山高校	指導案の検討、発表者の決定
59	7月19日(土)	広尾高校	授業実践報告
60	8月3日(日)	千早高校	授業実践報告、発表内容の整理
61	8月16日(土)	戸山高校	冊子編集作業
62	9月23日(火)	千早高校	発表内容の整理、冊子編集作業
63	10月25日(土)	千早高校	発表資料の検討、冊子校正
64	11月15日(土)	国立高校	ビデオによる実践報告、発表リハーサル、発表会資料作成
—	11月21日(金)	鷺宮高校	全国連第41回研究大会東京大会 第3分科会 発表主題：「国語総合」の指導と評価の工夫 発表者：松原志保(国立高校)
会員名簿(五十音順)			
飯島亜樹子(東京都立保谷高等学校)		鈴木 直美(東京都立千早高等学校)	
池田 美穂(東京都立八潮高等学校)		永井 佳子(東京都立足立工業高等学校)	
尾崎 肇(千代田区教育委員会育成・指導課)		廣瀬 愛(東京都立千早高等学校)	
北川すみれ(東京都立戸山高等学校)		藤井 ゆき(東京都立中野工業高等学校)	
木村美保子(東京都立広尾高等学校)		松原 志保(東京都立国立高等学校)	
小林 清香(東京都立千早高等学校)		八木 由佳(東京都立桜修館中等教育学校)	
顧問 田中孝一(文部科学省初等中等教育局主任視学官)			
相談役 西辻正副(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)			
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官			

あ と が き

平成14年12月に発足した自主勉強会「フロムT」(=from Teachers,from Tokyo)の活動も、もうすぐ7年目に入ろうとしている。「評価で授業を変える」とは、学習指導要領に記された指導事項に対し「どのような」能力を身に付けさせるために、「どのような」教材を用いて「どのような」活動を授業時に行い、「どのような」方法でその成果を確認するのかを考え、現場で実践し続けること。つまり、これらの「どのような」を具体化し、振り返り、自らの授業を改善していくことが必要とされているのであり、何も今までの全てを否定し、新たな何かを作り出せといわれているのではないと気づいたとき、私自身は今までにない自由を手に入れた気がした。

平成16年秋、私たちは、日々接している生徒たちの姿を思い浮かべ、学校の外に広がる社会のこれからを考えながら、フロムT版「国語総合」年間の指導と評価の計画を作成した。併せて、各領域の中から特徴的な単元を取り出し、単元の指導と評価の計画をたて、実践する中でその成果と課題を明確化した。このときに得られた課題をもとに進めた研究の結果が本冊子である。

まず、領域内での単元と単元の系統性、領域間の関連性を意識しながら年間の指導と評価の計画を丁寧に点検し、修正を加えてきた。計画はあくまでも計画であり、実践する中で期待する効果が得られなければ目標の実現に向け、手だてを考えて改善をはからなければ意味がない。指導事項のバランス、それに基づく単元の配置、単元の目標と評価規準、評価方法、必要な時数、教材など常に部分と全体を考える必要がある。規準を明確にし、学習者、指導者双方にとって有益な根拠の明らかな評価をしたい。全てはここから始まる。しかし、私たち教員に与えられている時間には限りがある。少しでも負担を軽減するよう、目標に応じてさまざまな評価方法を考える必要がある。その一つの方法として今回は「関心・意欲・態度」のルーブリック、A領域の評価表の作成を試みた。作成にあたっては基礎研究、素案の作成、試行、検討、修正など多くの時間と手間をかけてきた。しかし、これらが日々私たちの感じている負担感を軽減する助けになると信じている。

こうして振り返ると、グループとして汎用性を意識し、個々の会員の研究、実践を共有することを繰り返すことがこれらの研究を可能にしたのだと強く感じる。そして、ともに学び、批評し合える仲間がいるという安心感があったから、ここまでたどり着くことができた。休日とはいえ10数名が集まることの難しさはあるが、あらためてその意義を確認し活動を継続していきたいと考えている。現在進行中の研究については全国連第41回東京大会での発表をご覧いただきたい。これまでの研究に対し、ご指導ご鞭撻を賜れば幸いである。

今春、小学校と中学校の新学習指導要領が発表された。秋には解説も発行され書店には関連の書籍が多数並んでいる。次は高等学校である。この先のフロムTの活動は、私たちがめざすべき地点を改めて探ることから始まるのかもしれない。

最後に、私たち「国語実践の会—フロムT」がこの冊子を刊行し、再び全国連東京大会で発表をすることができたのも文部科学省初等中等教育局主任視学官、田中孝一先生、文部科学省初等中等教育局教科調査官、西辻正副先生にご指導・ご助言いただくという貴重な機会に恵まれたからに他ならない。会員一同、両先生に心より感謝申し上げます。

(廣瀬 愛)

「国語総合」の指導と評価の工夫 第2集

2008年11月21日発行

編 著 国語実践の会—フロムT
(全国高等学校国語教育研究連合会事務局)

問い合わせ先 東京都豊島区千早3-46-21
東京都立千早高等学校 廣瀬 愛
電話 03-5964-1721

R70

古紙製本・印刷・製本・製本・製本
印刷部 印刷部 印刷部